研究会報告

極域研究連絡会1995年秋季研究会「北極域の雪氷と大気」の報告*

和田　誠[*1]・山崎孝治[*2]・小西啓之[*3]

極域研究連絡会が，1995年日本気象学会秋季大会の翌日，10月19日に大阪の合同庁舎4号館の講堂で開催された．近年文部省，科学技術庁，気象庁等の多くの機関で北極域の観測が行われているので，実際にどのような観測および研究が行われているかについて相互理解を深めるために，極域研究連絡会としてシンポジウム「北極域の雪氷と大気」を開催した．シンポジウムへの講演については，気象学会秋季大会の講演募集と同時期に，極域研究連絡会のシンポジウムとして募集を行った．発表件数は10件，参加者は約40名，9時から14時頃まで発表と討論が行われた．またシンポジウム終了後今後この会をどのように運営していくかについて，短時間の議論が行われた．

1．シンポジウムの内容

このシンポジウムのために大会前にすでに予稿集が作られており，詳細についてはその予稿集を見ていただきたい（現在まだ残部が有るので興味のある方は和田までご連絡ください）．発表のタイトルの報告と全体を通しての感想を述べる．

1）タイトルおよび発表者

1．「北極大気観測の今日，明日」　山内恭(極地研)

2．「ロシアの北極圏雪氷観測事情(セブリナゼムリヤ偵察行より)」
高橋修平（北見工大）　高橋氏の都合により山内氏が簡単に紹介

3．「北極スバールバルの降水についての考察」
和田誠（極地研）

4．「カナダ北極圏で行われた極域擾乱の観測的研究」　遊馬芳雄（北大院理）

5．「シベリア湿原における大気環境汚染の現況とその環境影響評価」　深澤達矢（北大工）

6．「北極海の海氷分布の変動と北日本の冷夏」
力石國男（弘前大理）

7．「北極圏の海氷の長期変動の研究に向けて」
榎本浩之（北見工大）

8．「1995年冬季の北半球成層圏オゾン－SESAMEキャンペーンに関連して」　中根英昭（環境研）

9．「北極域成層圏におけるオゾンその他の微量物質循環のADEOS/ILAS衛星およびILAS検証実験による観測計画について」　神沢博（環境研）

10．「冬季南極域におけるOLR分布の大陸スケールの季節内変動について」　平沢尚彦（極地研）

2）全体の感想

全体として今後どのような研究を行っていくか，についての討論は今回行われなかったが，今回の発表から見ると，何か1つに絞って考えるという時期は過ぎ，各研究グループが広く色々な国と共同でまとまった研究を行っているように感じられた．観測対象領域もロシア，スバールバル，カナダまた北極海全体と幅広く行われている．今回の発表にはなかったが，雪氷関係ではグリーンランドの氷コアの掘削なども行われている．その他にも気象研究所，環境研究所等が北極域での観測を行なっている．今回の発表について述べると，極域で減少が顕著である成層圏のオゾン，さらにオゾンの減少に関連すると考えられる微量物質の研究，北極海の海氷の日本の気象および世界の気候に及ぼす影響，シベリアの大陸寒気団形成と関連が有りそうなカナダ域での寒気団形成を探る観測，汚染物質が集中しやすい極域で汚染物質の種類・量を調べることによって，極域が環境，気候に与える影響を探る観測，と多

---

* Report on the Workshop of Polar Research Committee(仮称), Autumn 1995,"Glaciology and Atmosphere in the Arctic".

*1 Makoto Wada, 国立極地研究所.
*2 Koji Yamazaki, 北海道大学大学院地球環境科学研究科.
*3 Hiroyuki Konishi, 大阪教育大学教育学部.

© 1996　日本気象学会

岐にわたっている．GEWEXではシベリアでの観測が計画されており極域での研究は今後とも増えていく傾向にある．

北極域の観測では南極の観測と異なり必ず他の国と共同で仕事を進めていく必要がある．このための情報交換が必要である．地理的，設営的状況についての情報はもちろんのこと，今までその地域でどのような研究が行われてきたかについての情報の交換も必要である．多くの情報に基づきどのような研究を行うのが良いのか検討していく必要が有るだろう．また今後は観測だけでなくグローバルなデータ(衛星データを含む)を使った解析を行う研究者を増やしていく必要が有りそうである．今後更に意見交換の場を増やし，情報を集めていく必要性を感じた．

2．極域研究連絡会の今後についての検討

会の活動が最近停滞気味である．会の幹事メンバーもあまり変化せず初期の意気込みが失われつつあるので，その打開策として今後の極域連絡会をどのような組織にしていくかについて，若手3人(浮田甚郎氏，中村尚氏，平沢尚彦氏）で考えてもらうこととした．南極では来年度から新5か年計画が始まり，また北極では沢山の観測が考えられている．地球科学関係の研究者の数が足りない中で極域の観測研究をする人を増加させるにはどうしたら良いか，極域で面白い研究は何か，などに付いて検討してもらうこととした．次回5月の気象学会の時に提案を出していただき，改めて議論することとした．

この会への沢山の方々の参加を期待しております．どなたでも結構です．ご意見御希望等ありましたら和田までご連絡ください．

連絡先　〒173 板橋区加賀1-9-10
国立極地研究所　和田誠
Tel：03-3962-5580
Fax：03-3962-5719
Email：wada@nipr.ac.jp

情報File

ヒマラヤ/チベットの環境変化ワークショップのおしらせ

「地球環境変化とヒマラヤ/チベット山塊の役割」

主催：IGBP/PAGES，日本大学文理学部自然科学研究所，日本第四紀学会

コンビーナー：小野有五・遠藤邦彦・岩田修二

期日：1996年7月8日（月）～9日（火）

会場：日本大学会館801講堂（千代田区九段南4-8-24）
JR中央線・営団地下鉄有楽町線・都営地下鉄新宿線市ヶ谷駅下車徒歩3分

最近の研究のレビュー

ヒマラヤ/チベット山塊
山塊の隆起/氷河変動/氷河涵養機構と水循環
ヒマラヤ/チベット山塊周辺地域の環境変動
インド洋/湖沼/タクラマカン沙漠/黄土高原
モンスーン変動のメカニズム

今後の研究課題の検討（仮説の提示とディスカッション）

問い合わせ先

〒192-03 八王子市南大沢1-1
東京都立大学理学部地理学教室　岩田修二
Tel　0426-77-2591
Fax　0426-77-2589